

佐渡島・日蓮聖人

大銅像建立15周年

去る、4月23日は母の誕生日でした。去年から入院を繰り返し、皆様にはご心配と迷惑をお掛けしたにもかかわらず、心暖まるお声掛けを頂き、心より感謝申し上げます。そんな母ですが、病気とも上手に付き合ひながら、お喋り大好きな元気な母として、変わらぬ日々を感謝しながら過ごさせて頂いています。また、病気を通して、元気の有り難みと、命の尊さを痛いほど感じさせて頂いています。今後も変わらぬお付き合ひの程、宜しくお願い申し上げます。

さて、そんな母の誕生日でもあった4月23日ですが、息子の私も記念すべき、生涯忘れることのできない、有り難い経験をさせて頂きました。実は、説教師としてお招きいただき、佐渡島へ渡りました。

佐渡島と言えば、承久の乱で敗れた順徳天皇（じゅんとくてんのう）をはじめ、お能の大成者である世阿弥（ぜあみ）観世元清（くわんせげん）や日蓮聖人が、かつて島流しにあった場所。

「1度流されたら2度と戻ることはできない」と言われた佐渡島。順徳天皇でさえも許されることのなかった佐渡島。その中にあって唯一人、流罪を赦免（しやめん）許される）となった稀有の人が、日蓮聖人その人でした。

●【世界一大きな大銅像】

高さ26^{メートル}、重さ28^{トン}。

『世界一大きな』日蓮聖人（にちれんしょうにん）の大銅像建立15周年が厳かに挙行されました。お月様が輝く夜空の下、全国各地より結集された数百名の皆さま方へ、日蓮聖人の生涯貫き通された御心を、お話しを通して再確認させて頂きました。今や佐渡島のランドマークとなっている日蓮聖人大銅像建立に至る経緯が素晴らしい。

20年前のこと（平成10年）、全国の日蓮宗青年会が団扇太鼓（うちわだいこ）を片手に、この佐渡の地で声高らかに唱題行脚（しょうだいあんぎや）を展開しました。その姿に感銘を受けられた地元の方より、「法華経（ほけきょう）の布教、そして日蓮聖人のために、この土地を『活用ください』と、なんと土地寄進の申し出がありました。

更に「この土地も使って下さい」と、近隣の土地を寄進してくださる方、また全国の暖かいご支援も集まり、平成15年（2003年）5月13日、高さ26^{メートル}重さ28^{トン}という世界一大きな日蓮聖人の大銅像として、ここにお姿を顕現（けんげん）されたのでした。

●【変化の人】

仏教では「変化（へんげ）の人」と言って、日々の出来事に感謝の気持ちを持って人間らしく生きようと努力する人には、人の姿に身を変えた誰かを遣わして、その人をサポートしてくださると教えられています。

佐渡の地に大銅像が建立できたのは、広大な土地を寄進して下さった、まさに「変化の人」をはじめとする檀信徒（だんしん）との熱い信仰心と、先人達が脈々と受け継いで下さった信念、そして完成までお導き下さった日蓮聖人の魂魄（こんぱく）に「まじい」が、厳然と息づいていると言えます。

●【阿仏坊と千日尼】

日蓮聖人が佐渡へ流罪となったのが今から747年前の旧暦11月1日。現在の暦でいう12月初旬の頃。北国佐渡では寒風吹きすさぶ真冬の季節。当時、日蓮聖人は50歳でした。塚原という墓地に由来した死体置き場の、雪が降り積もって消えることがない、三昧堂（さんまいどう）とは名ばかりの、一間四面というから8畳ほどの、粗末なあばら屋に日蓮聖人は捨てるように置かれました。

「日蓮という悪僧が、念仏を唱える者は無間地獄に落ちると言って、この佐渡に流されてきた」という良からぬ噂は、あつと言う間に佐渡中に広がりました。佐渡に暮らす島民達には、念仏信者が多く、「念仏無間」と喝破される日蓮聖人を目の敵にしました。その中の一人に、83歳の阿仏房（あぶつぼう）という武士がいました。この阿仏房、元は遠藤左衛門尉為盛（えんどうさえもん）のよう（ためもり）と名乗り、かつて、承久の乱で佐渡に流罪となった順徳上皇の供人（ともびと）として随従した立派な武士でした。阿仏房は仏門に入り、念仏三昧の毎日だったことから、阿弥陀仏の「阿」と「仏」を取って、島民達からは尊敬を込めて阿仏坊と呼ばれ親しまれていま

した。そんな念仏信仰に熱心だった阿仏房の耳に「念仏を唱える者は、無間地獄に落ちる」と言っている日蓮聖人に怒りと恨みの心を抱いて、「とんでもねえことだ。こうしちやおれな。阿弥陀仏を誇る許しがたき悪僧」と、取るものも取りあえず、塚原三昧堂に乗りこんで行きました。「我が手で切らんと！」と、阿仏房は殺気をみなぎらせつつも、刀を抜く前に日蓮聖人に問うた。

「なぜ念仏無間と悪口するのか？」と。

日蓮聖人は「念仏では救われない。法華経・お題目に帰依しなければならぬ」ことを、穏かに、諄々（じゅんじゅん）とその理由を説き示されました。その明らかなる道理、確信溢れる説法、そして日蓮聖人の気品と慈悲を湛えた温容に接した阿仏房は、「素晴らしい僧侶だ。間違っているのは、私達の方ではないか」と、たちまちに己れの誤りに気づき、その場で念仏を捨て、日蓮聖人と法華経への帰依（きゐ）を誓いました。阿仏房は妻の千日尼（せんにちにあま）と共に、「日蓮聖人を、何としてもお守りしなくては」と、おひつを背負い、食べ物や、御供養の品々を人目を忍び、夜中にこっそりと、日蓮聖人の庵室に届けるといふ、献身的なお給仕の日々が始まりました。ある時、お給仕をしている事実が明るみになり、阿仏房と千日尼は罰金に処せられました。加えて、家宅を取り上げられるという弾圧も受けました。

阿仏房夫妻は、もし見つければ当然こうなる事は始めから分かっていた。はじめから百も承知の罰則覚悟で、身の

危険をも顧みぬ、献身かつ真心から帰依をする阿仏房夫妻の姿を思えば、本当に涙がこみ上げてきます。

日蓮聖人は塚原三昧堂から一谷(いちのさわ)入道の屋敷へと移られた後も、2人は人目をしので御供養を運び、命懸けで日蓮聖人をお守りし続けました。

そんな不自由な暮らしの中で日蓮聖人は、『開目抄(かいもくしょう)』に続き、『観心本尊抄(かんじんほんぞんしょう)』や『大曼荼羅御本尊(だいまんだらごほんぞん)』などの重要な御書を執筆されます。こうした執筆に使われた貴重な紙・筆・墨なども阿仏房たち門下が苦心して、手に入れたのではないかと言われています。日蓮聖人は阿仏房夫妻に対して感謝の手紙をしたためられています。

「夜中に度々三昧堂をたずねてくれたことは、いつまでも決して忘れはしないでしょう」と。

日蓮聖人にとって、阿仏房(夫妻は紛れもなく「変化の人」と言えるでしょう)。

私達は、日常のささいな出来事の中で「変化の人」という視点をもって物事を考えることが大切なのだろうと思います。この視点をもつことで、「自分ひとりの力で生きている」などといった慢心な気持ちを抑えることができますし、様々な人たちに支えられて生きているのだという感謝の気持ちを持つことができるようになります。私達は皆支え合っています。1人で生きている人なんて誰一人いないわけです。気付くと気付かないにかかわらず、私達は必ず守られているのです。あなたのそばに「変化の人」。

そして私達自身も誰かの「変化の人」と成り得るのです。

●【見えぬものでもあるんだよ】

昔の人は、「お天道様が見ていらつしやる」という戒めと誇りを持って行動してこられました。便利になった現代は、感謝の心が足りないように思われます。誰にもバレなければ何をやっても良い。自分さえ良ければそれで良いという様な風潮を感じます。ここには、目に見えない物は大事にして、目に見えない事はどうでも良いという、便利になった現代の病巣、考え方が横たわっていると思います。感謝の心や、人に尽くす心は目には見えません。目に見えない事は疎かになりがちになるのも分かります。ただ、目に見えないから無いのではなく、見えないだけなのです。金子みすゞさんの『星とたんぽぽ』という詩があります。

「昼間の星は目に見えぬ、見えぬけれどもあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ」と。

その人の本当の価値は、その行為にあります。

「法華経」の真髓を一言で言えば「上求菩提(じょうぶだい) 下化衆生(げかしゅじょう)」

自らの人間性を磨き、他の人に尽くすということ。他に尽くすためには、自分に余裕がないとできません。その為に、常日頃の自分磨きが必要という事になります。

法華経の思想は「利他行(りたぎょう)」お釈迦様がこの世に誕生された根本の目的は、人の振る舞いを示すことでした。

地位や身分にかかわらず、周りの人や日々の出来事に感謝の心を抱きながら、懸命に生き抜く姿を示すこと。相手を尊び、心に寄り添い合う事が、人として何より大切な行為なのだと教えられます。佐渡が無かったら、日蓮聖人の生涯を語ることはできないし、私達が法華経・お題目を信仰する事はできなかったと言っても過言ではありません。彼の地に立つと、日蓮聖人の魂魄が息づいておられる事を実感します。佐渡銅像建立15周年を迎えた記念すべき時に、全国日蓮宗僧侶を代表してお話しさせて頂けた不思議な縁を肝に銘じ、法華経お題目の心を伝えていきたいと思えます。佐渡へお越しの際は是非とも、あの暖かい慈愛を醸し出す、吸い込まれそうな日蓮聖人の大銅像へ御参拝いただけたら何よりです。

合掌 副住職 谷川寛敬

ご案内

おてらく

～お気楽真成寺演芸会～

日時/ 平成30年5月19日(日)

開演 午後1時 (開場12時30分)

会場/ 真成寺 本堂

入場料/ 無料

出演/ ラニ・フラ・ホア

社会人落語家集団「ばららくご」より

川中奈丸、才川五六

【お問合せ】

玉蓮山 真成寺

〒937-0867 魚津市真成寺町4-6

TEL(0765)22-2268



駐車場はございますが、限りがございます。
公共交通機関のご利用にご協力ください。



日時: 平成30年5月19日(日)

開演 午後1時 (開場12時30分)

入場料: 無料

ラニ・フラ・ホアも踊りますよ(^_^)

フラと落語をお楽しみください!

どなたでもお越しくださいね!